

24.10.09 非認知能力を高める活動

1. グループワークを通じた探究学習とディスカッション

中学校の教室で展開される**「グループワークを通じた探究学習」**は、生徒が主体となって課題を解決する力を養う中心的な活動です。この活動では、単に知識を吸収するだけでなく、地域の歴史、環境問題、科学実験、あるいは「地域の伝統工芸を未来につなげる方法」といった、生徒自身の興味・関心に基づいたテーマを設定することが推奨されます。



生徒は少人数のグループに分かれ、役割分担を行いながら、情報収集から分析、結論の導出、そして発表に至るまでの一連のプロセスを経験します。この過程で行われるグループディスカッションは、他者と協力して課題を解決する貴重な機会となります。

【育成される非認知能力とその理由】

- ・協調性・コミュニケーション能力：異なる意見を持つ仲間と議論を重ね、共通のゴールを目指す過程で、他者の視点を尊重し、建設的な意見交換を行う力が養われます。
- ・問題解決能力と創造性：複雑な社会的課題に対し、多様な視点から分析を加え、既成概念にとられない最適な解決策を模索することで、論理的思考力と創造性が同時に鍛えられます。
- ・主体性と責任感：自らテーマを選定し、計画を立てて実行する経験は、学習に対する当事者意識を高め、自分の役割を全うしようとする責任感を育みます。

2. 多様な形式によるプレゼンテーション大会

各自が探究した成果をクラスメイトの前で発表する**「プレゼンテーション大会」**も、非認知能力の育成に非常に有効です。発表の形式は、スライドを用いたプレゼンのほか、ポスター発表や実演など、生徒が自身の得意とする表現方法を選択できるようにします。例えば「好きな本の紹介」をテーマにする場合、あらすじや登場人物の魅力を論理的にまとめつつ、視覚的に訴えかけるスライドを作成し、発表後には質疑応答による活発な議論を行います。



【育成される非認知能力とその理由】

- ・表現力と論理的思考：自分の考えを他者に理解してもらうために、情報を整理し、筋道を立てて説明する能力が向上します。
- ・自信と自己肯定感：大勢の前で発表をやり遂げたという達成感は、生徒の大きな自信に繋がり、自己肯定感を高めるきっかけとなります。
- ・聴衆理解力と批判的思考：相手の反応を察知しながら内容を調整する柔軟性や、他者の発表に対して適切な質問を投げかけることで、多角的な視点から物事を捉える力が養われます。

3. 地域社会とつながるボランティア活動

学校のカリキュラムに**「ボランティア活動」**を組み込み、地域社会に貢献する経験を積ませることは、生徒の内面的な成長を促します。地域の清掃活動、高齢者福祉施設への訪問、動物保護活動など、活動の幅は多岐にわたります。



【育成される非認知能力とその理由】

- ・社会性と共感力：社会の一員としての役割を認識し、困っている他者を助けたいという利他的な気持ちを持つことで、深い共感力が育まれます。
- ・自己効力感と道徳心：自分の行動が他者や地域に役立っているという実感は、「自分はやればできる」という自己効力感に繋がり、善悪の判断基準となる道徳心も養われます。
- ・社会的な責任感：自分が担った役割を責任を持って遂行する経験を通じて、学校外の社会においても誠実に生きる姿勢が形成されます。

4. 自己評価と目標設定のワークショップ

生徒が自身の内面を見つめ直す**「自己評価と目標設定のワークショップ」**は、生徒が自律的に学びを進めるための基盤となります。教師はファシリテーターとして、生徒が自分の強みや弱みを客観的に把握し、短期・長期の目標を具体化できるよう支援します。

【育成される非認知能力とその理由】

- ・粘り強さ(グリット)と自律性：自分の進歩を自ら確認し、困難に直面しても目標達成に向けて努力を継続する姿勢が身につきます。
- ・逆境に立ち向かう力(レジリエンス)：失敗を単なる負の結果として捉えるのではなく、改善のためのプロセスとして受け入れることで、挫折から立ち直る力が育まれます。

指導上の留意点とまとめ

これらの活動をより効果的にするためには、以下の3つの視点が不可欠です。第一に、**「生徒の興味関心に基づいたテーマ設定」

を行うことで学習意欲を最大化させること。第二に、グループワークにおいては「役割分担を明確にすること」で一人ひとりの主体性を引き出すこと。そして第三に、教師や仲間からの「フィードバック」**を重視し、生徒が自分自身の成長を客観的に振り返る機会を設けることです。

生徒一人ひとりの個性や成長段階に合わせ、これらの学習活動を柔軟に組み合わせることで、中学生の非認知能力を総合的かつ多角的に育てることが可能となります。知識の習得にとどまらない、全人的な成長を支援する教育の実践が求められています。